



オーストラリア多文化主義政策交流プログラム 参加レポート

(財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

当協会では、オーストラリアの多文化主義政策について理解を深めるとともに、意見交換を通じて多文化共生に対応した地方行政・地域づくりについて学ぶため、シドニー事務所が中心となり、オーストラリア多文化主義政策交流プログラムを実施しています。

平成23年度は、地方自治体・地域国際化協会から6名の参加をいただき、2011年11月19日～27日の日程でシドニーを訪れました。その中から2名の参加レポートを紹介します。

迫力あるオーストラリアの多文化主義を体感

静岡県企画広報部地域外交局多文化共生課主査 竹田 敏彦

静岡県に生活する外国人住民は約83,000人。全人口380万人に占める割合は2.2%。一方、シドニーのあるニューサウスウェールズ州（以下、NSW州）で暮らす外国生まれの住民は150万人強と実に全人口650万人の4分の1を占めています。これほど多くの外国生まれの住民を抱えたNSW州がどのような施策を行っているのか、また日本との違いは何かについて学び取ることを期待し、このプログラムに参加させていただきました。

はじめに感じたのは、NSW州多文化主義の力強さや迫力は、国の確固とした移民政策と移民たちによる各種の要求や活動を起源としているのではないかと思います。NSW州では、国が政策として、人材不足を補い産業を安定させるため、積極的に能力の高い移民を受け入れ、大規模な翻訳・通訳サービスや第二言語としての英語教育などを無料もしくはきわめて安価で提供しています。一方、オーストラリアを新しい母国とした移民たちは、自身の権利や公平な機会のため政府に対して要求を行い、経済、文化、社会に様々な貢献をしています。これら双方向



補助金を受けて運営される日本語学校

コミュニケーションが国の活力の一つの源になっているように感じました。

また、各機関・団体を訪問した中でとても印象的だった話がふたつありました。一つは、日本とは比べ物にならないほどの多言語情報サービスを提供しているオーストラリアでも、皆が一番大事なものは「英語とオーストラリアの価値観」であると言っていたことです。もう一つは課題になりますが、海外からの移民に対しては効果的な施策を行っているオーストラリアが自身の国土に生活する原住民アボリジニとの共生に様々な課題を抱えているとのことに驚きを覚えました。

本当に多くの情報をいただいたプログラムの中で、将来的に日本人、そして日本に生活する外国人に必要なと感じたことがあります。

まず初めに、日本人に必要なこととして、外国人を受け入れるのであればきちんとした制度を整え、日本人ひとりひとりが外国人を地域住民としても受け入れる必要があるということです。そうすれば、彼らの能力を活用し、地域に活力をもたらすことが可能でしょう。

一方、外国人側には、日本語を学び、日本の地域社会で生きていく覚悟を持つことが必要であろうと考えました。

「お互いに赤い血が流れている人間なのだから話し合えば必ずわかりあえる」という関係者の方

の言葉がとても心に残っています。オーストラリアでも日本でも人間が理解しあうのに必要なものはコミュニケーションとお互いの尊重であることに変わりはありません。規模や質の違いはあるものの、オーストラリアでも日本でも大切なことは同じであると確信できたことがプログラムに参加

して得た大きな収穫でした。

最後になりましたが、今回のプログラムの実施にあたり、御尽力くださったクレアシドニー事務所の皆様をはじめ、滞在期間中お世話になった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

「多文化共生」の形

財団法人福岡国際交流協会 小柳 真裕

「多文化共生」、近年、日本でもよく耳にするこの言葉が意味するものは何か、これが今回のオーストラリア研修で一番学びたかったことです。「多文化共生」と聞いてまず思い浮かべることは、互いの文化を尊重し合い、どのようなバックグラウンドの人も差別されることなく平等に、互いの存在に疑問を持たずに自然に仲良く生活できる環境でした。けれど、私が以前から感じていたオーストラリアは、多文化は確かに目に見える形で存在しているけれど、それぞれが「個」であり、その中に「和」が見えず、これで本当に多文化共生といえるのか、と疑問を抱いていました。しかし、今回のプログラムに参加し、「多文化共生」を以前と違う視点で捉えられるようになりました。

今回、様々な機関を視察させていただきましたが、そのどの機関でも差別をなくし、皆が快適に暮らせる環境を作ることが重要であり、そのために人々が何を必要としていて、何に困っているのか、人々の声をきちんと聞く体制を作ろうとしている姿勢を強く感じました。また、人々の側も、自分たちのニーズをきちんと伝えようとする姿勢を持っており、自分たちで率先して行動をとっていました。もちろん互いの利益のすれ違いや確執があったり、妥協しなくてはいけない部分が多々あるのも垣間見ることができました。しかし、今回訪ねたウィロビー市やオーバーン市のように、地方自治体とコミュニティ団体がとてもいい関係で協力し合い、より住みやすい町づくりを行っているよい共生の形が見られ、とても刺激を受けました。

シドニーという場所は、本当に様々な文化が混

ざり合った「多文化」の街でした。お店、看板、人々の風貌、言語、誰一人違和感なくその空間に入り混じっていました。けれど、すべて「混在」はしていても、「共生」しているように思えなかったのは、私の考える「共生」が「和：ハーモニー」であったから。もちろん、私たちが訪れた小学校のように、幼少の頃から様々な民族の中で育つことで、自然に「共生（和：ハーモニー）」を受け入れることが一番理想的です。けれどお互い交わる機会がさほどない環境でも、お互いの価値を認め合うことができるようになることが一番大事なのだと感じました。今回の研修に同行していただいた塩原先生の講義の中であった、「共生」に大事なものは、常に交わりあうことではなく、お互いの存在を認め、必要なときにきちんと対話ができること、という言葉にとっても納得することができました。

私が住む福岡でも、在福外国人は人口の1.7%と少ないですが、その数は年々増えてきています。彼らにとっても、その地域住民にとっても、暮らしやすい環境、そしてサービスをさらに充実させていかなくてはと身が引きしまりました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会をくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



Auburn Botanic Gardensにて